

通し番号	5170
------	------

分類番号	R04-9C-33-10
------	--------------

禁漁期間中における相模川水系と酒匂川のアユ釣獲状況	
[要約] 平成30年から令和4年までの5年間、相模川水系及び酒匂川において、禁漁期間中（10月15日～10月31日）にアユの釣獲調査を実施した。釣獲した計22,501尾のうち403尾の雌雄比率と成熟状況を調べたところ、雌雄比率は雄が60%、雌が40%であった。また、成熟した雄の個体比率は29%であったのに対し、雌は1%であり、禁漁期間中に釣獲された雌は殆ど成熟していなかった。漁期を延長した場合でもアユを釣獲することが可能であると判った。	
神奈川県水産技術センター・内水面試験場	連絡先042-763-2007

[背景・ねらい]

近年、組合員の高齢化や遊漁者の減少など、漁協を取り巻く状況は悪化しており、漁協の収入を増加させて経営改善を図るため、遊漁者を増やす必要がある。

神奈川県漁業調整規則ではアユの産卵期を保護するため、10月15日から11月30日までは禁漁となっているが、遊漁者を増やすため、内水面業界は漁期を長くすることを要望している。

そこで、相模川水系と酒匂川において、主要な産卵場より上流にある漁場での漁期延長を検討するため、各漁業権者が特別採捕許可を10月15日～10月31日で取得し、連携して釣獲調査を行った。

[成果の内容・特徴]

1 禁漁期間中の採捕状況

特別採捕調査は友釣りとし、台風による増水で実施できなかった年を除くと、相模川・中津川は4回（平成30年、令和2～4年）、酒匂川は2回（令和3～4年）、それぞれ実施した。相模川で8,220尾、中津川で13,976尾、酒匂川で305尾のアユを釣獲し、そのうち403尾をサンプリングして、雌雄比率と成熟状況を調べた（表1）。

2 採捕個体の雌雄比率及び成熟状況

5年間の調査期間全体での雌雄比率は、相模川で雄61%、雌39%、中津川で雄63%、雌37%、酒匂川で雄57%、雌43%であった。3河川を合計すると、雄は60%（240個体）、雌は40%（163個体）で、雄の割合が高かった（図1）。

また、成熟状況を調べたところ、成熟個体（雄：GSIが10以上、雌：GSIが26以上）は相模川で雄50%、雌0%、中津川で雄38%、雌3%、酒匂川で雄12%、雌0%、3河川全体で雄29%、雌1%で、雌は殆どが成熟していない状況であった（図2）。

[成果の活用面・留意点]

禁漁期間中（10月15日～10月31日）に釣獲された雄の29%は成熟していたが、雌は殆ど成熟しておらず、漁期を延長した場合でも釣獲することが可能と判った。しかしながら、今後、産卵数量や翌年の遡上数に係る調査を行い、釣獲による翌年資源への影響について更なる検討を要す。

[具体的なデータ]

表1 調査期間中に釣獲した個体数

年	相模川	中津川	酒匂川	合計
平成30年	394(0)	812(78)		1,206(78)
令和元年				
令和2年	342(0)	3,210(45)		3,552(45)
令和3年	2,945(0)	1,839(24)	130(48)	4,914(72)
令和4年	4,539(33)	8,115(54)	175(121)	12,829(208)
合計	8,220(33)	13,976(201)	305(169)	22,501(403)

() はサンプル数
空欄は調査を実施せず

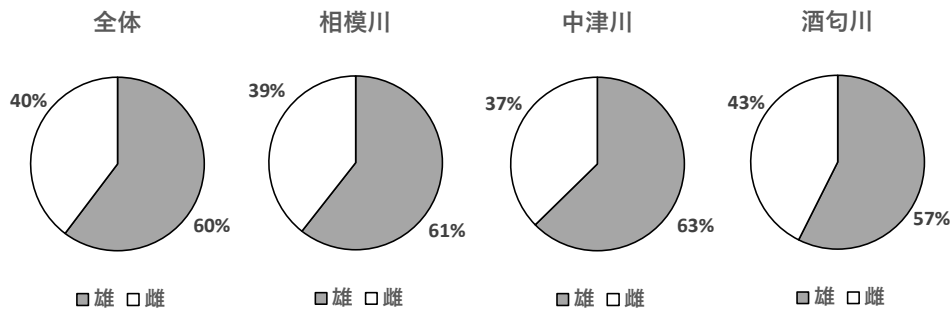


図1 調査期間中に釣獲した個体の雌雄比率

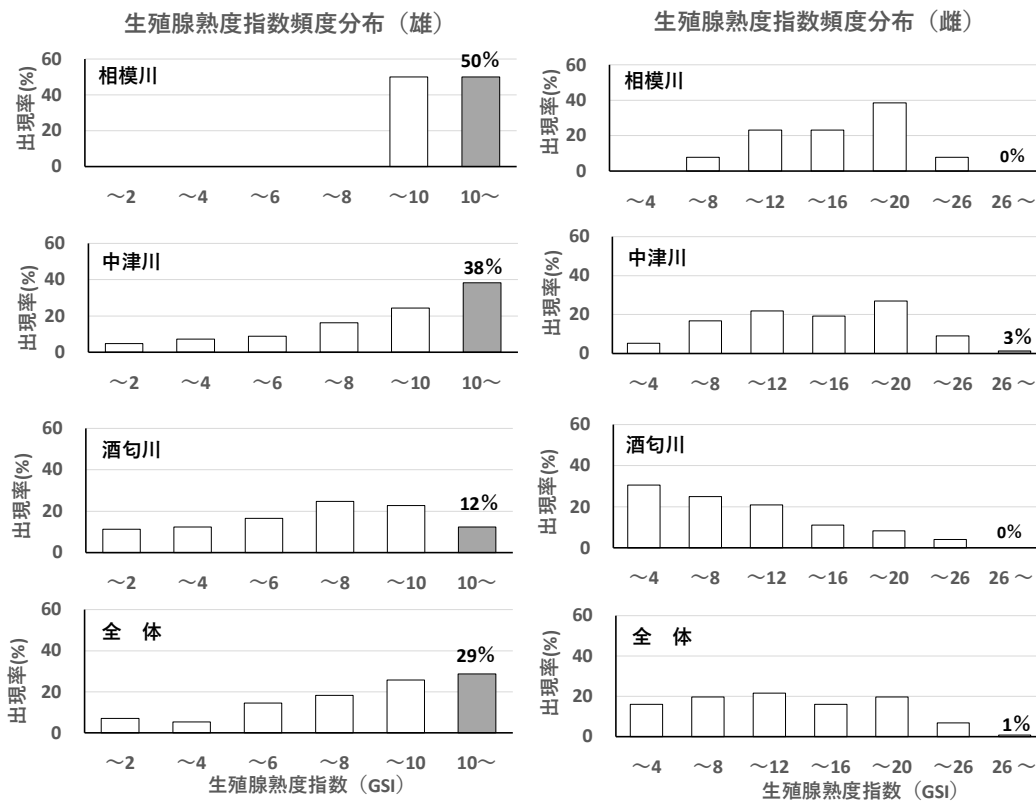


図2 調査期間中に釣獲した個体の成熟状況

[研究課題名] アユ繁殖調査

[研究期間] 平成30年～令和4年度

[研究者担当名] 櫻井繁、工藤孝浩